

## 令和2年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市西院老人デイ  
サービスセンター

### 1 施設の管理運営

京都市老人デイサービスセンター条例に基づき、 ・老人福祉法第20条の2の2に規定する老人デイサービスセンターとしての事業 ・前号に掲げるもののほか、市長が必要と認める社会福祉の増進に関する事業 を実施
(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

### 2 事業実施内容

送迎サービス・入浴サービス・食事提供サービス・レクリエーションの提供・機能訓練・介護 相談・健康チェック・地域との交流事業・持ち帰り弁当サービス・時間延長サービス・ケアプ ラン作成
開所日：月曜日～日曜日（365日運営） 定員：35名 事業実施地域：京都市右京区（京北地区を除く） 中京区 上京区 西京区
(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容
(参考) 自主事業内容 コミュニティーカフェ運営、レンタルスペース、多世代交流食堂運営

### 3 サービス提供状況

<サービス提供体制> 管理者1名 生活相談員4名（兼職含） 介護職16名（兼職含） 看護師3名（兼職含） 機能 訓練指導員3名（兼職含）
・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、西院が目指してきた「地域に貢献・発信・参加」の 取組である、カフェの運営など、住民が集ったり、活躍する機会を大幅に縮小することとなっ た。 ・そのような中でも、地域とのつながりを継続するための方策を検討することができ、オンラ インを活用して、「おいでやすフェスティバル」を開催することができた。その際には、地域 への働きかけはもちろんのこと、法人内のデイサービスや児童館とも連携して取り組むことが でき、法人一体化を進めるといふ、法人の方針にも貢献することができた。 ・新たな取り組みとして、右京区社会福祉協議会と連携して、地域の事業所のつながりと連携 を軸にしながら、西院圏域の地域にある資源や住民主体の取組などを紹介し、地域の高齢者の みならず、多様な人が活用できるツールづくりを開始することができた。これをきっかけに、 分野を超えて、事業所間のネットワーク構築と、西院圏域でともに地域福祉を考えるための土 壌の醸成につなげていきたい。 ・西院デイサービスで実施している「sitte」PJについて、コロナ禍でも多様な人や団体な どと、つながる取組を行うことを検討した。その中で、「林福連携」を掲げ、京都市の助成金 を活用しながら、新たな商品開発に取組んだり、オンラインを活用して、北桑田高校の生徒と 高齢者がともに木工製品を制作することをし、京北で開催されたイベントで販売することが できた。これは、NHK京都放送局からの取材を受け、放映されるに至り、「sitte」が発信 するメッセージを広く啓発する機会となった。
(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

#### 4 市内中小企業への発注に対する考え方

市内中小企業に事業を委託する場合は、以下の考え方に従って業者選定をしています。

委託への考え方

- (1) 業務内容が専門的な知識を必要とし、かつ施設内の職員では対応が困難な業務の場合。
  - (2) 法人が専門的に行う業務ではないため、専門に行う業者のほうがより効率的に、かつ質の高いものを提供できると判断できる場合。
  - (3) 業務内容は簡易であるが、行う人材を集めることが容易でない場合、その業務を行える人材を集めることに特化した業者がある場合。
- また、備品購入等の発注については、市内の業者を優先して活用しています。

#### 5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 延べ利用人数 (実績値)

9784 人

(2) 稼働率 (実績値)

81.3 %

(3) 収支実績

ア 令和2年度収入状況 (単位: 円)

介護保険収入	101,478,653
利用料収入	9,330,623
委託料収入	8,910
補助金収入	3,042,418
寄付金収入	152,000
雑収入	783,227
その他	1,079,510
収入計	115,875,341

イ 令和2年度支出状況 (単位: 円)

人件費	95,825,029
事業費	26,451,776
委託費	12,263,463
小額修繕費	1,018,688
その他	818,032
支出計	136,376,988

#### 6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

ご利用者にアンケートを実施。

(2) 利用者満足度把握の結果

概ね満足との回答を得ている。

### (3) 意見等への主な対応状況

- ・個別対応のレクリエーションの提供を実施
- ・外出行事の要望についても、希望者を募る形で積極的に実施
- ・昼食、おやつなど給食に関して、厨房業者と給食委員会を開催し、ご利用者様の意見を反映できる仕組みを構築
- ・入浴、排泄について、プライバシーの配慮や心地よく過ごしていただける取組を職員会議で話し合い、個別対応の入浴時間を設けている。
- ・施設内にアンケート調査結果を掲示し、ご利用者に開示している。
- ・その都度、いただくご意見などについては、ミーティングやケース会議で議論する機会をつくり、何らかの返答を行うようにしている。

## 7 その他特記事項

### (1)

- ・西院デイサービスにおいて、コロナウィルスがご利用者や職員にまん延し、クラスターとなり、デイサービスを3週間休止することとなった。ご利用者、ご家族などへの多大なる影響と経営的にも大きな収入の減少となった。
- ・クラスターの事象を除いても、コロナ禍で事業の稼働率の低迷があり、全般的に収入の減少がみられた。感染予防策を講じながらの運営の難しさを感じた1年であった。
- ・コロナ禍ではあったが、ボランティア、社会福祉士の実習生、ジョブパークから実習生、大学生のインターンシップ（オンライン）を工夫しながら受け入れた。
- ・外部研修・施設内研修を実施し、法人職員として求められている知識・技術、職員の課題意識を高めケアの向上を図った。zoomでの研修を取り入れる等、工夫して研修を実施している。
- ・5S活動を実施しており、業務改善にも取り組んでいる。

## 8 評価（指定管理者自己評価）

- ・今年度はコロナ禍で当初予定していた事業、地域とのイベント等が軒並み中止、延期となったが、ICT等を活用して下記取り組み等を実施。
- ・ボランティア研修会の講師として福井と奈良の社会福祉協議会や、光華女子大学でボランティアについての授業を実施した。
- ・おいでやす食堂(多世代交流食堂)はテイクアウト方式を採用し、地域とのつながりを途切れさせないためにも継続している。
- ・認知症サポーター講座は学区内の小学校や大学で実施していた。また現在も、デイの職員がジョブパークからの依頼を受け、2ヶ月に1回程度の割合で実施している。
- ・認知症の当事者である職員が、認知症の理解を広げるため、講演活動を実施したり、フォトブックの制作を進めている。
- ・sitteプロジェクトにおいては、新聞・テレビ等のメディアにも取り上げられたり、研修会等の講師として取り組みの発表を行なった。また、京都府が主催している認知症にやさしい異業種連携協議会に参加し企業と取り組みを行なったり、経済産業省の補助事業に参加したり、京都市の林業振興課の補助事業で商品開発やワークショップをおこなったりと、異業種との連携を進めている。
- ・障がい者に対する差別の禁止及び合理的配慮の提供義務については、障がい者雇用や障がい特性、差別撤廃への社会的障壁や取組の現状等について職員研修を実施し学びを深めるようにしている。